

Xbaseを育てなかった日本の失敗

ダウンサイジングが起こってから、かれこれ10年以上が経過した。数年前まではオフコンをダウンサイジングするための情報が雑誌や書籍で読めたのだが、ここ数年はご無沙汰である。もはや、この種の情報は売り物にならなくなっただろう。しかし、それは多くの中小企業にとって深刻な問題だと考えている。

インターネットは商品を販売したり情報を集める技術としては重要だが、業務管理システムはそれ以上に重要である。にもかかわらず、ほとんどの中小企業がコピー機をリースしている会社に相談するぐらいしか解決策を持っていないのが実情だと思う。これでは希望にかなったシステムが完成するはずはない。

中小企業の情報化を推進する動きは国家プロジェクトとして企画され、これに参画したこともあった。だが、ある程度の規模以上のソフト・ハウスが中心になって多くの作業を進めてしまい、中小企業にとっての恩恵はほとんどなかったように思う。最近では大手PCベンダが以前なら絶対に受注しなかったような金額で中小企業のシステムを手掛けるようになってきているようだが、大手PCベンダの社内コストを考えると、笑っては見てられない。ベンダかユーザのどちらかが一方的に損をするか、どちらも損をしなければ成り立たない関係に思えるからだ。

さらに深刻な問題がある。日本では、Microsoft Accessなどのデスクトップ・ソフトと、Oracleなどのサーバ・ソフトとの中間に位置する使いやすいデータベース管理システムが廃れてしまったことだ。海外ではこの中間を補完するデータベース管理ソフトとしてXbase (dBASE

互換処理系)が現在でも幅広く使われている。これに対し、日本のIT化はインターネットと特定のソフトに特化したものになってしまい、結果的に必要な技術を排除した格好になってしまった。これはXbase言語の標準化に失敗したことにも起因するが、日本人の国民性にも原因があるように感じる。

例えば、100台のクライアントで使える業務システムとなると、データベース・サーバでは高額のコストが必要になる。これがXbaseなら、100万円以下でシステムを構築できる(クライアント・ライセンスがフリーであることもあり)。ある意味ではベンダ泣かせだが、ユーザが余計な資金をリソースにせずに済むので、プログラム開発に十分な予算が取れるようになる。

Xbaseをただ安かろう悪かろうの懐古趣味のように思っている技術者も多いだろう。しかし、世界的なXbase処理系の一つであるMicrosoft Visual FoxProは、信じられないほど高速であり、またサーバ・サイドのWebアプリケーションまでも構築できる。例えば、27万件のテーブルから全件のデータを一つずつ取り出してはさまざまな条件処理をかけ、結果を他のテーブルに書き込んでいくという処理をわずか40秒台(400MHz動作のPentium)でクリアする。

前号の「ユーザ最前線」欄に掲載されたオール ジャパン メガネ チェーン(AJOC)のシステムは、いわば少し古い技術で作られた最先端のシステムである。カスタム・メイドで重要なのはまず、使用する技術の安定性と安全性である。我々は実験でも趣味でもなく、確実な成

功と信用を得なくてはならない。なぜ、いまだにXbaseなのかと問われると「明日までに」と言われて「何とか」と答えられる処理系が他にないからである。

AJOCのシステムの場合、導入から5年目の現在でも、まだ発展途上にある。最初の仕様を満たしても、それは必要最小限のことであって、企業の発展にはさらなる改良やアイデアが不可欠となる。これがないと、企業にとっての業務システムとは単なる固定費となってしまう。私の顧客のシステムでは1カ月以上アップデートがないことはまずあり得ない。社内にシステム部門を持つ以上に手厚くケアしたいという意識からだ。

今の日本は構造改革で揺れているが、構造改革で最も重要なことは目先のIT化や自由化、民営化ではない。パブルに踊らされ、必要な技術を大手ベンダの意図で消してしまう主体性のなさは、本来の日本人の姿ではないと信じている。優秀なはずの日本人の強い価値観を喚起する教育の本質的な改革こそ、真の構造改革と考えている。

Visual FoxProは、米Microsoft社の.NETの仕様から外れ、独自路線を貫く方針を決めた。NETに従うことでVisual FoxPro本来の能力を落とす可能性があるというのが理由だ。同社はVisual FoxProの存続に積極的ではなかったと聞く。だが、いまだにVisual FoxProの将来が約束されているのは、世界中のユーザや開発者からの強い支持があるからだとも聞く。見習いたいものである。

筆者は10年前からオフコンのダウンサイジングに専念。システム開発会社である彩考の設立メンバーの一人で、現在は顧問を務める。